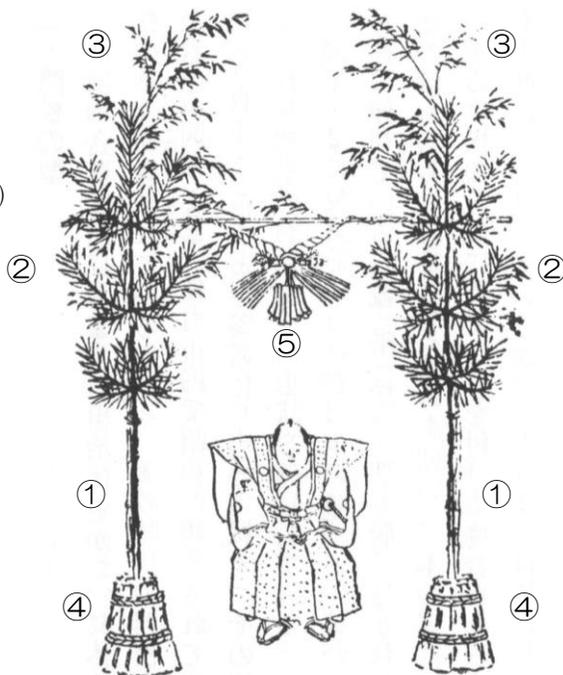


仙台門松のすがた

江戸時代に仙台北下で版元を営んだ山田屋が、版画の下絵として描いた仙台門松。
(『仙台郷土研究 13-1』より)



①心柱(しんばしら)

松や笹竹などをくくり付けるための支柱です。おもに栗の木や桐(くぬぎ)の木が用いられます。

②松(三階松)

心柱に取り付ける松は、左右に伸びる枝が三段になった三階(さんがい)松が一般的ですが、仙台北に飾られた門松では、五階松や七階松が用いられました。

③笹竹

松の上方には、上に伸びるように枝葉が付いた笹竹が取り付けられます。また、心柱を結ぶように竹を横に渡すことが多いようです。

④鬼打木(おにうちぎ)

心柱の根元には「鬼打木」と呼ばれる割り木や板がくくりつけられます。3枚あるいは12枚と数が決まっている場合もあれば、多くの割り木で心柱の根元をおおい隠すようにする場合もあります。おもに檜(なら)や栗の木が使われます。

⑤ケンダイ

三階松にしめ縄を巻き付け、それを門松の中央部で交差させて「ケンダイ」と呼ばれるしめ飾りを作ります。ケンダイは、地域や家によって少しずつ形は異なりますが、紙で作った梵天状の飾りを付け、炭や昆布、かんきつ類、干し柿などが添えられます。なお、しめ縄やケンダイは、必ず通常の縄とは逆の左ないで作られます。

仙台地方の門松

かつての仙台北下で飾られた門松は、現在よく知られている門松の形 —斜めに切った三本の竹に松を添え、その根元を藁(わら)で巻く— とは全く異なるものでした。

それは、2本の柱に大きな松と笹竹を取り付けて、門のように造り上げ、それにしめ縄を巻きつけて、中央に「ケンダイ」と呼ばれるしめ飾りを付け、鬼打木と呼ばれる割り木を根元に添えるものでした。

地域によって形や材料に少しずつ違いはありますが、このような門松は、ほぼ仙台北領全域で飾られていたようです。しかし、明治時代以降、少しずつその数を減らし、とくに第二次世界大戦中、そして戦後に激減し、個人宅でこうした門松を飾ることはほとんどなくなりました。



江戸時代中期の仙台北領北部に関する絵画史料に描かれた門松
(「歴ネット企画 仙台の伝統的な門松」チランより転載)



仙台北の大手門。戦災で焼失した全国有数の規模を誇るこの城門にも、大きな門松が設置されたのでしょ

仙台北の門松

仙台北で飾られた門松は、五階松や七階松を使い、高さは約4mになる豪壮なものでした。

寛文10年(1670)の古文書によると、そのころ仙台北と藩の施設で、合計42組の門松が設置されていました。城下にある藩の関連施設の分も相当あったようです。

こうした仙台北で飾られる門松の材料は、宮城郡根白石村(仙台市泉区根白石)から献納されるのが恒例となっていました。門松の材料を納める家は「御門松上げ人(おんかどまつあげにん)」と呼ばれる8軒に限られていました。

御門松上げ人たちは、年末になると身を清めてから山に入って材料となる木を伐り出し、仙台北へ納めていました。彼らは租税の一部を免除されるなどの特権を与えられていましたが、仙台北の門松は特別に大きいので、材料を集めるのには相当苦労した様子を根白石に伝わった古文書が物語っています。

幻の門松を追い求めて

仙台市博物館が行っていた仙台市史編さん事業では、仙台の歴史に関して多くの成果が得られました。門松もその一つです。江戸時代の古文書調査や民俗学的調査によって、現在見られる形とは違う門松が仙台藩領で飾られ、伊達政宗の時代までさかのぼるだろうということが分かってきました。

さらに調査を進めるなかで、仙台城の門松とゆかりがある根白石で、藩の山林を管理する山守(やまもり)であった旧家が、現在も伝統的な門松を飾っていることがわかりました。

門松を復元する

10年ほど前から、仙台市博物館での調査などをきっかけに秋保温泉の老舗ホテルで門松の復元・展示が行われるようになりました。そして平成25年の正月から、仙台市内の歴史系ミュージアム連携事業である仙台歴史ミュージアムネットワーク(歴ネット)の事業として、門松を伝えていた旧家の協力を得て、伝統門松の復元・展示が始まりました。

また、丸森町の物産販売施設、根白石の寺院などでも復元が行われるようになり、今年はさらに仙台の市街地中心部での復元展示が本格的に始まりました。

歴史的なことを感じる機会の多いお正月に、ぜひ仙台伝統の門松をご覧いただき、仙台藩の歴史や伝統を実感していただければ幸いです。

仙台門松が見られる所

瑞鳳殿(仙台市青葉区霊屋下)	12/16~1/14
史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設(仙台市若林区木ノ下2丁目)	12/17~1/16
仙台市縄文の森広場(仙台市太白区山田上ノ台町)	1/5~1/22
仙台市戦災復興記念館(仙台市青葉区大町2丁目)	1/4~2/9
仙台市富沢遺跡保存館(仙台市太白区長町南4丁目)	12/17~1/22
仙台市歴史民俗資料館(仙台市宮城野区五輪1丁目)	1/5~2/2
仙台文学館(仙台市青葉区北根2丁目)	12/25~2/11
はや瀬(仙台市青葉区中央1丁目 ホテルメトロポリタン仙台内)	12/26~1/13
第3志ら梅ビル(仙台市青葉区本町1丁目)	12/27~1/13
菓匠三全 広瀬通り 大町本店(仙台市青葉区大町2丁目)	12/26~1/13
東北福祉大学仙台駅東口キャンパス(仙台市宮城野区榴岡2丁目)	12/27~1/13
満興寺(仙台市泉区根白石字町西上)	12/29~1/7(予定)
秋保温泉ホテル佐勘(仙台市太白区秋保町湯元字薬師)	12/30~1/10
いきいき交流センター大内(丸森町大内)	12/28~1/13

※一部施設では、入館料等が必要となる場合があります。詳しくは各施設へお問い合わせください。

※この事業には、仙台市博物館および東北福祉大学のご協力をいただいております。

仙台の伝統的な門松 ご存知ですか？

『仙台門松を市内に飾ろう』プロジェクト、スタート!!

一般社団法人 心のふるさと創生会議では、伊達政宗や仙台藩の歴史講座を三年前より開講してまいりました。しかし、そこで学んでイメージを膨らませる歴史の風景を、市内では、ほとんど見ることはありません。

観光客の意見に多いのは「仙台は本当に美しい近代都市なのに驚きました。東京23区に次ぐ24番目の区といっても通ります」という感想です。続けて「それは、街を歩いていて伊達政宗の薫りを感じる歴史風景に触れることは、殆どないからです」と言われています。

私たちの団体は、伊達政宗、仙台藩の歴史の薫りする街づくりを心掛け「心のふるさと」といえる観光都市仙台を創ることを目的に設立したものです。

歴史講座に次いで、このたび、約10年前に仙台市博物館が古文書を丹念に調べ研究した結果、復元に成功した『仙台門松を市内に飾ろう』を合言葉にした活動を始めました。まず今年は、この呼びかけに賛同いただいた仙台市内4つの事業所に、仙台の伝統的な門松、『仙台門松』を飾ります。

引き続き来年以降も、夏の七夕、正月の仙台門松で「歴史を生かしたまちづくり」をさらに推進したいと考えております。

今年は、下記の期間に仙台市内4ヶ所に仙台門松の飾りつけをいたします。ご覧いただき、仙台の歴史と伝統の薫りを実感していただきたければと存じます。

◆日本料理「はや瀬」 ホテルメトロポリタン仙台2階	12月26日~1月9日
◆第3志ら梅ビル 広瀬通と愛宕上杉通交差点角	12月27日~1月13日
◆菓匠三全 広瀬通 大町本店 大町2丁目	12月26日~1月13日
◆東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス	12月27日~1月13日

令和元年12月

一般社団法人 心のふるさと創生会議

URL: www.kokoronofurusato.org/